

乙 頁

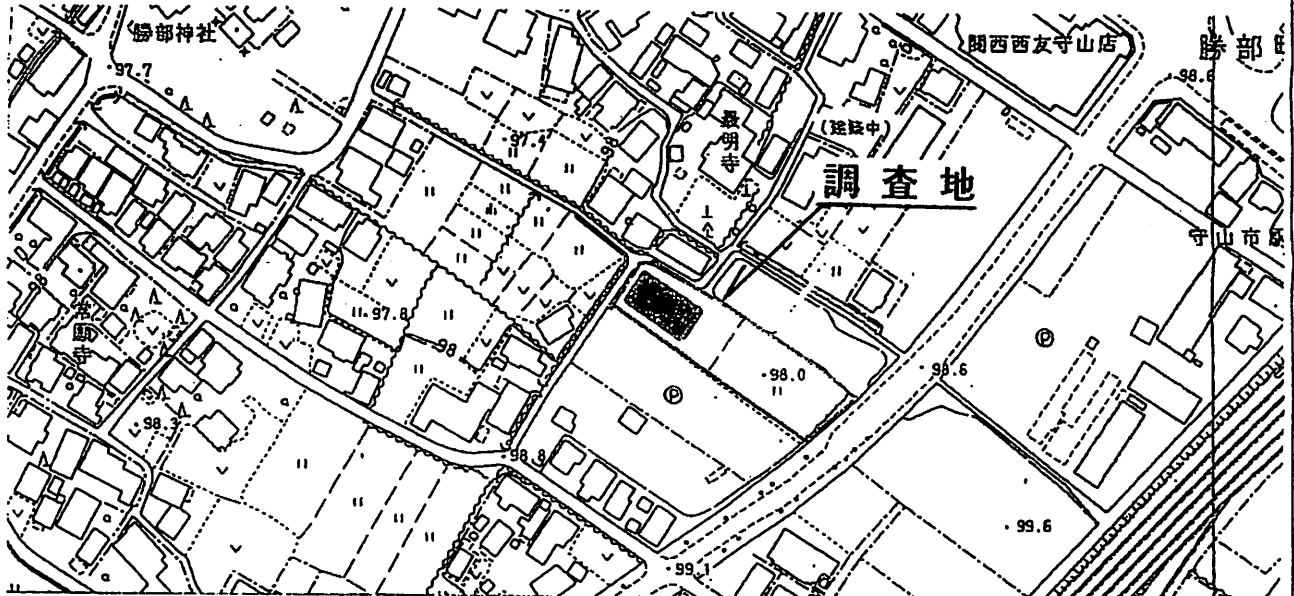
第167号 通巻29巻 第4号
平成21(2009)年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
Tel・Fax 077-585-4397

〒524-0212

守山市服部町2250番地

発掘調査だより



調査位置図

1. 吉身北遺跡第29次調査

勝部一丁目字松塚地先において、共同住宅の建築に伴い約300㎡を対象に、平成21年9月28日から10月16日にかけて調査を行いました。調査地の隣接地では、平成8・9年に直径約27mを測る6世紀初頭の円墳、5世紀後葉の製塩土器や滑石製の玉類を伴う^{たてあな}竪穴建物などが確認されており、今回も同様の遺構が確認されることが予想されました。今回の調査では、地表面から約40cm下で遺構面が確認でき、土坑や溝、ピット、古墳を検出しました。

調査区東部分で見つかった古墳(ST-01)の墳丘規模は不明ですが、周溝の幅約5mを測り、拡張したトレンチで屈曲する溝が確認できたことから、帆立貝式古墳の可能性が^{はたてがいしきこふん}あります。周溝埋土の中層からは、5世紀末～6世紀初頭と考えられる須恵器の大甕などが出土していて、墳丘に^{きょうけん}供献されたものが周溝内に転落したものと考えられます。また、周溝内の墳丘寄りでは、土壇臺が確認できました。長さ2m以上、幅1mの規模を測るものですが、出土遺物が少量のため古墳に関するものかは検討を要します。

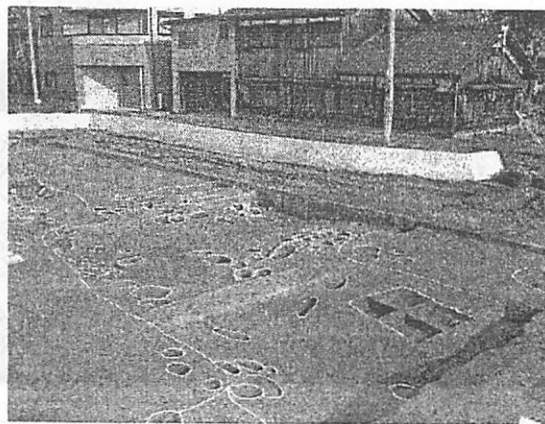
検出した溝の中には、平成8年度に見つかった方墳に続くと考えられる溝があります。出土した須恵器からするとST-01よりも新しく、6世紀初頭～6世紀前葉と考えられます。SD-36においても同時期の須恵器が出土しており、古墳の周溝の可能性が考えられます。

これらの古墳は過去の調査でも確認されているように、溝を共有するという特徴があ

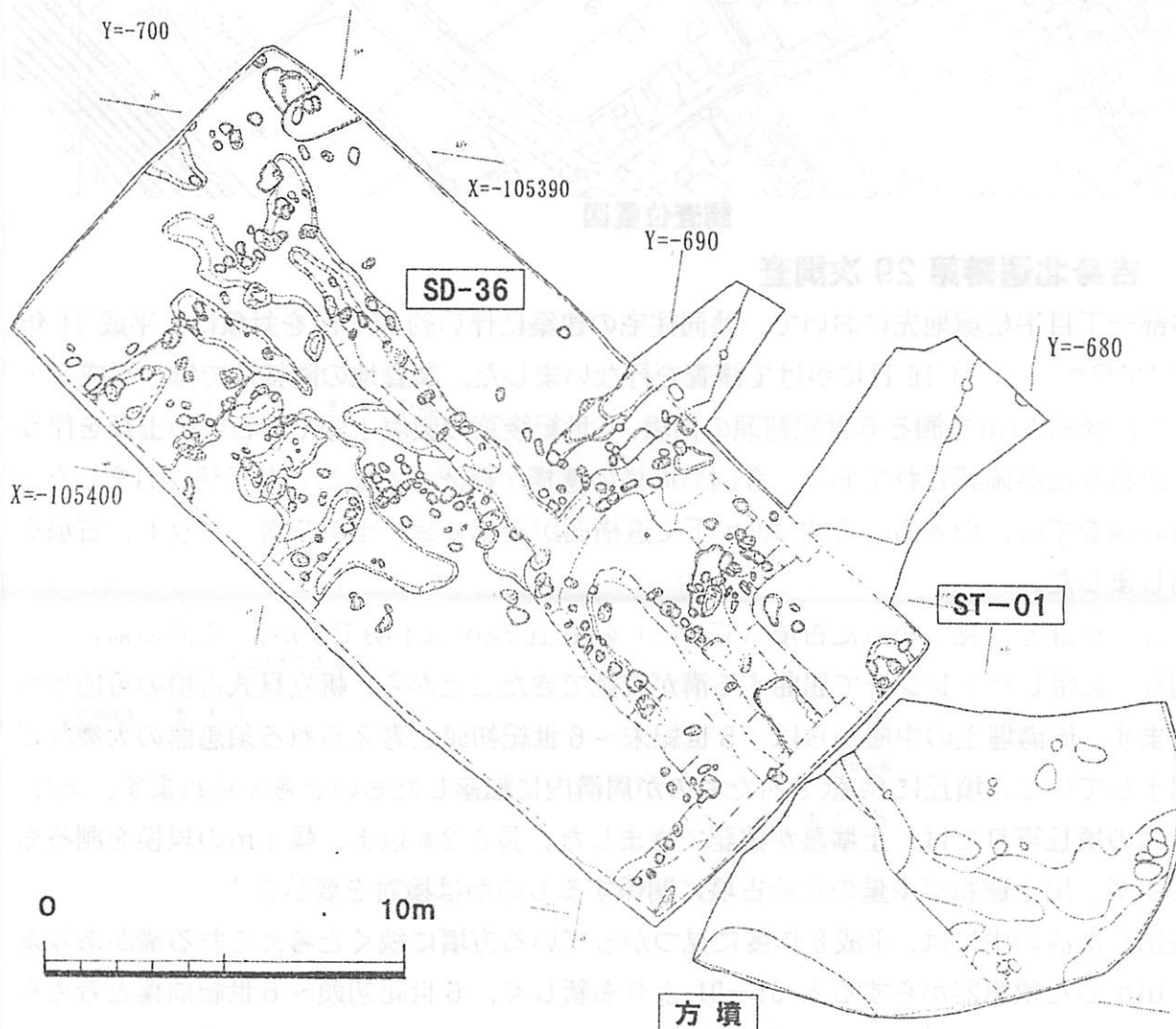
り、方形周溝墓と似た家族墓的な造墓形態である可能性が考えられます。

調査区周辺の既往調査では、6世紀前葉の円墳が4基、方墳が2基確認されていますが、今回の調査をふまえ周辺一帯の古墳の築造順を整理しますと、5世紀末～6世紀初頭のST-01を端緒として、6世紀初頭～6世紀前葉に方墳と円墳が築造されたものと考えられます。また、今回の調査によって、調査区の南東方向にも古墳群が広がるものと思われます。新たな古墳の発見や方墳の築造時期が判明したことを含め、調査区周辺一帯の古墳群の様相が明らかになりつつあることは大きな成果であったと言えます。一方で竪穴建物が今回の調査では確認されていないことから、集落域は今回の調査区よりも西側に広がるものと思われます。

(平井)



▲ST-01 全景(手前の溝が古墳の周溝)



吉身北遺跡 第29次調査 全体平面図(縮尺 1/200)

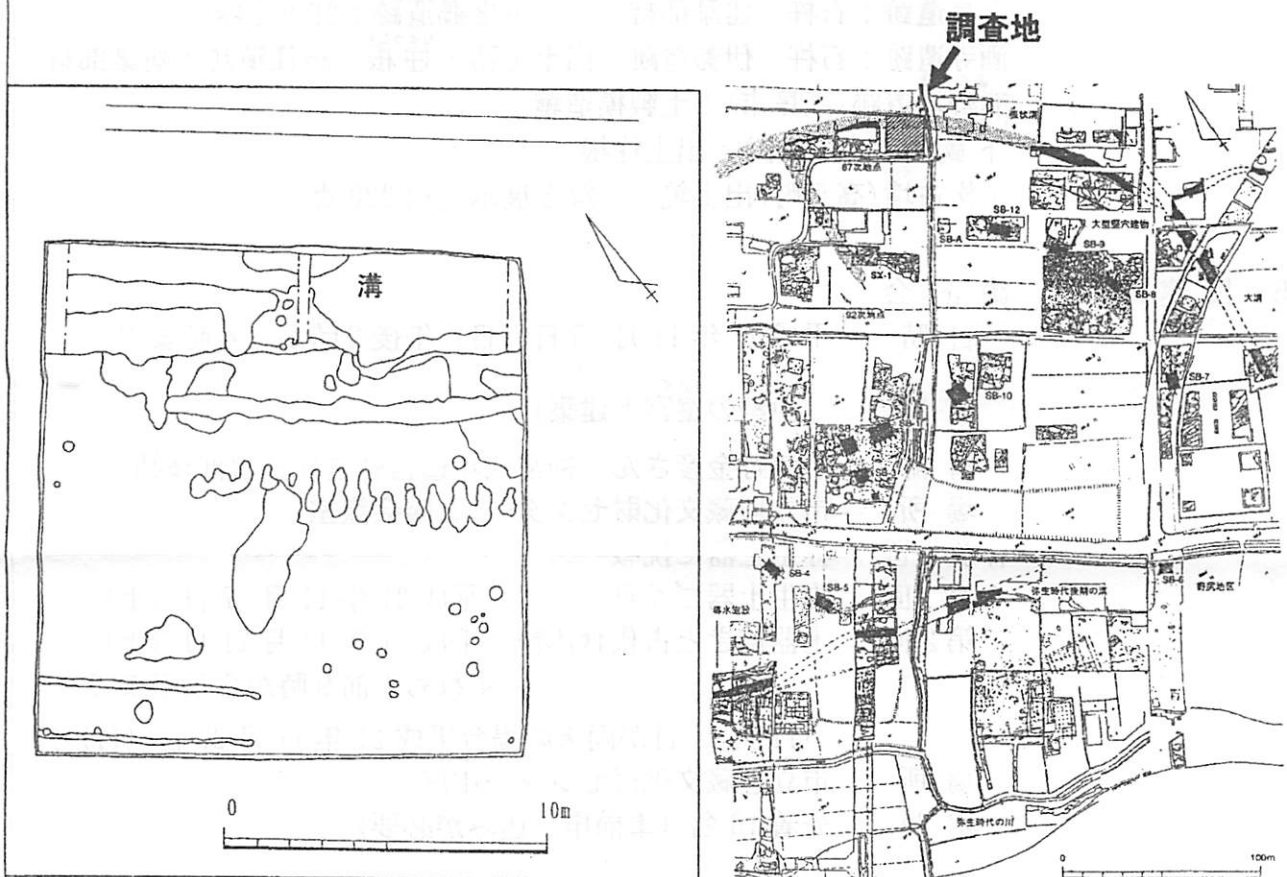
2. 伊勢遺跡第 109 次確認調査の成果

9月1日から9月16日にかけて、伊勢町地先の大津財務事務所管理地において確認調査を実施しました。これまでの調査では、阿村町から北方へ弧状に伸びる溝が存在することが判明していますが、今回の調査地点はその延長部にあたります。

調査の結果、予想どおり^{こじょうみぞ}弧状溝の延長部とみられる溝が検出され、この他に柱穴や溝が検出されました。弧状溝は幅3.3m以上、深さ約80cmの大きさで、断面形状は浅い^{わんじょう}碗状になっていて、溝の底は二段掘りとなっていました。溝の底からは、弥生時代後期半ばから後半にかけての土器が出土しました。

溝の形状や掘り方からみると、阿村町地先で検出されている同じ遺構と推測されました。一部断ち割りを行ったところ、調査区外に伸びる溝の断面が上がり始めていることがわかり、溝幅は4.5m以上の規模と推定されました。溝は北方から北西方向へと向きを変えていて、日吉神社の方向へとさらに弧状に伸びることがわかりました。

今回の調査で、予想通り溝の延長部が検出され、^{えんこ}円弧を描くように伸びることが判明しました。この弧状溝は、円周上に並ぶ^{どくりつひなもちばしらつ}独立棟持柱付き大型建物群の外側約30mの地点に同心円状に掘られており、大型建物との関係が注目されます。(伴野)



▲ 調査区全景

▲ 伊勢遺跡東半部遺構図

秋季特別展開催のお知らせ

11月は文化財保護強調月間にあたります。埋蔵文化財センターではこの時期、秋季特別展示を開催いたします。

今年の特別展は、市内の大規模集落内で見つかった大型建物、ことに湖南地域にあって政治とまつりを行う中心地と考えられています伊勢遺跡や、大型建物と建物を区画する溝、権力者を示すような様々な遺物が出土した下長遺跡等を中心に、これらの調査成果から「^{くに}國」がつくられる過程について探ります。

- 1 開催テーマ 『大型建物とその時代』
- 2 開催期間 平成21年11月1日(日)から平成21年11月23日(月・祝)まで
(期間中無休)
- 3 開催時間 午前9時から午後4時まで(入館時間)
- 4 主な展示品 服部遺跡：方形周溝墓供献土器 吉身西遺跡：方形周溝墓供献土器
下長遺跡：石杵、建築部材 下之郷遺跡：弥生土器
酒寺遺跡：石杵、伊勢遺跡：出土土器・柱根、横江遺跡：建築部材
熊野本遺跡(高島市)：土製模造鏡
下^{くまのもと}鉤遺跡(栗東市)：出土柱根
小松古墳(高月町)出土鏡 など展示物約200点
- 5 関連行事 講演会
日時 平成21年11月15日(日)午後2時から4時まで
演題 「伊勢の^{せんぐう}遷宮と建築」
講師 宇津野金彦さん 神宮式年遷宮造営庁造営部技師
場所 市立埋蔵文化財センター 2階会議室
体験学習 弥生土器に挑戦
第1回 弥生土器づくり 平成21年11月7日(土)
第2回 土器焼きと古代食体験 平成21年11月21日(土)
いずれも午前9時から正午まで
(11月21日が雨天の場合平成21年11月22日(日))
場所 市立埋蔵文化財センター中庭
定員 先着10名(事前申し込みが必要)
- 6 その他 特別展開催準備のため10月20日(火)から10月31日(土)まで
と展示資料等整理のため11月24日(火)から11月30日(月)まで
休館いたします。